NIE実践報告

1．タイトル：**キャリア教育における新聞の活用**

2．学校名

碧南市立大浜小学校

3．実践者名（代表者名）

小串久美子

4．学年

６年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合（キャリア教育）３７名

6．単元（本時の学習課題）名

働く人の気持ちを新聞から読もう

7．目標(狙い)

その道のプロと言われる人は、どんな気持ちで仕事をしているか新聞記事から読み取り、働く姿勢を学ぶ。

8．評価の視点

二つの記事を読み比べ、同じ仕事をする人の考え方を知ったり、比べたりできる。
働くことの意義を考えることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「働く意義を考える」　総合的な学習の時間　４／１１

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

１つかむ　　人はなぜ働くか、考えよう（１時間）
２調べる　　働いている家族に取材しよう（２時間）班発表、全体発表
３広げる　　NIE活動を取り入れ、働く人の気持ちを考えよう（１時間）２紙より「シューフィッター」
４深める　　働く意義を身近な人、お父さんやお母さんから学ぼう（３時間）
・質問項目と質問者の決定
・仕事人のゲストティーチャーから学ぶ
・お礼の手紙、感想文を書く
５まとめる　NIE活動を取り入れ、少年の主張大会の作文に学ぶ（２時間）
・今の自分に必要なものを考える
・学習のまとめ
６発展　　興味のある仕事について調べよう（２時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

働く意義の変化　　はじめは経済的な面ばかりに注目していたが、授業が進むに連れ、働く喜びや苦労がわかると、視野が広がり、社会貢献、いきがいや自己実現にも目が向き、視野が広がった。

12．成果と課題

新聞記事を使うと、ゲストティーチャーを呼ばなくても、生の声に近い意見を知ることができる。
二つの記事を読み比べることにより、働く姿勢の共通点や、その人独自のものの考え方を読み取ることができる。また、新聞記事の働く大人を学ぶことを通して、働く家族への見方が変化した。
しかし、指導要領の改定で、総合の時間が削減されているので、NIE活動の時間を生み出すのも大変である。単元の構成や指導計画など、まだまだ改善の余地がある。